

恒憲王殿下の臺臨を仰ぎ

第六回總會の大盛況

善隣の巨頭を迎へ—各分科會燎爛の櫻花と競ふ

三十六峯の縁を染めて降る春雨も今日名残なく晴れ渡つて、紫の霞は古き都の大路小路に、不安以來の句を籠めて佃曳き渡る。この日、四月一日北山の翠體を背負ふ岡崎公園に於て、第六回日本醫學會總會は長くも、賀陽宮恒憲王殿下の御臨場のもとに最も盛大に舉行された。

會するもの無慮二千五百、來賓としては善隣中華民國より陸軍部醫務課長軍醫監張、同軍醫學校長軍醫監全紹清、内務部中央防疫處副處長兼京師傳染病院長嚴智鍾、北京病院長侯毓、南北病院長伍連德、公立上海病院長王曾憲、北京協和醫學部ドクトル、エツチ、イー、メレネイ氏等の巨頭を數へ、朝野の貴顯之列なつて、折柄の春日の如く和氣霽然に空の盛儀を極めた。かくて午前九時と言ふに茲に愈々開會を宣し、男、荒木登頭は左の如き開會の式辭を述べた。

開會之辭

殿下に來會諸君、茲に第六回日本醫學會の開會式を舉ぐるに際し、殿下の臺臨並に内外大賢の貴臨を余して至大之光榮を加へたるは、不肖の感激に堪へざる處なり。本邦に於ける醫學の振起は各科の専門的研究並に諸分科學會の蔚然たる興隆を促し遂に明治三十五年を以て第一回日本醫學會を開き爾後四年度に同數を累れ、茲に第六

第六回日本醫學會の開會に當り殿下の優渥なる令詞を辱し本會の光榮何を以てか之に加へん、寅三郎等自今益々奮勵各位の期待に違はざるに努む、謹て謝辭を呈す。  
次で内閣總理大臣高橋是清氏の左の如き祝辭があつた。

高橋首相祝辭

日本醫學會が設立以來二十有餘年常に吾國醫學の進歩に貢献して倦む所なかりしは、余の欣快に堪へざる處なり。而も、研鑽致致に津涯なく、醫學の前途は遠望なり。醫學衛生の問題にして尙ほ斯界有識の努力に俟つ可きもの尠しとせず。會員諸君、莫くは克く計り克く究め、本會の基礎を堅め愈醫學の聲譽を擧げ、以て文運の隆昌に貢献せられんことを、聊か所望を述べて祝辭とす。

次で名譽會頭總代理醫學博士猪子止才之助氏の左の如き祝辭があつた。

第六回日本醫學會の開會に際し吾國醫學の年を遂げて盛んなるを覺、衷心の喜に堪へず。慎しみて祝す。  
なほ各大臣、京都府知事、市長及び支那等の祝辭があつて、愈々特別講演に移る。

三田定則博士の「非經口蛋白代謝」は全く來會者を心酔せしめて正午休憩。午後から眞島利行博士の「有機化學の研究方法に於ける最近の進歩」三島海隆三博士の「煮沸沈澱元及び煮沸沈澱元」があり、後者は四時間有餘に亘る長講演で、午後七時散會した。

分科會

各分科會は二日から各會場で開催し立つ様な春日和を外にして、各自の研究報告に心身を盡して居る。何しろ演説總數千四百八十といふので、これを三日の間に片付けやうといふのだから、その忙しさは又格別

である。唯醫學部の所々の空地には紅白の幔幕を張つた、接待所なきがほころんだ花の下に、柔らかな春を領して居るのが長閑である。

第一分科(解剖)

會場 於京大醫學部解剖教室  
開期 四月二日、午前九時

足立博士司會の下に開會、演題も二十三に追加が一つで此處だけは充分に學會氣分がする譯だ。着席者の妙いと云ふ事も頗る心地良い。京大の佐々木君が皮切りで關島、國友兩博士の講演は傾聴に値する。軍陣醫學者の解剖研究者は全然ない譯でもあるまいが、自分の知れる範圍では一體に解剖を輕視或は無視して居る様に思はれるので怪しからん事と斷言する。取敢へず之れ丈で止めて置く。

第二分科(生理、醫化、藥物)

會場 於京大醫學部生理學講堂  
開期 四月二日、三日、午前八時

森島博士司會の下に開會此部會の性質として慎重に學究的に沈ち着いて演者の講演を聴取する事の出来るのは何よりである。今年演題も十六の前例なき多數に上り二日間に亘り、學會としては最も上乘のものであるが、何處も同じ秋の夕ぐれで「講演は二題十分以内」に、先づ臆を落す演者の尠くないのは遺憾千萬な事である。森島博士も開會の辭の中に「當大學の生理醫學化學藥物の三教室よりも、夫々講演の申込みがあつたのであるが、遠來の諸君に敬意を表して悉く撤回致しました」と云はれる、各分科會を通じて眞摯に考慮す可き問題である。

第三分科(病理)

會場 於京大醫學部病理教室  
開期 四月二日、三日、兩日

角田博士司會の下に開會、記者の入場した時は恰度川上漸君の宿題「糸狀蟲病」を報告して居る處だ、長與、佐多、藤浪、林等も云ふ巨頭連が第一列にズラリと並んで居る、演題が百三十餘りもあるのに只三日でやつ付けやうと云ふのだ。而も會場が四五度變る上に毎日宿題報告があるらうと云ふ、桂田熱帶病及船員病研究の獎學資金は安藤亮君に決定した何にしても忙しい事だ。四月四日(第三日)の「ビタミンB」問題には豫期せられた通りに討論が出た。病研究會學術集談會も四日に開催された。ユックリと聞きたいものもあるが、何と云つても、時間の缺乏は惜しい事だ。

第四分科(内科)

會場 三高許領館同集合教室  
開期 四月二、三、四日、午前八時

チト、前後するが、第二日の聞き場所は第十三分科會の微生物と混合して開會した「恙蟲病」の討論であつた。名古屋の向山君が大正十年度の恙蟲病研究成績を報告した後にデイスクツションが盛んに起つた。林、石原、長與、川村君等云ふ鏘々連の事で何時盡きるとも思へなかつたが長與君の取做しで「一般には餘り興味も薄く、貴重な時間を割くに忍びないの、今回は打切つて明年は特別に別の時間を作つて研究しませう」とで免を付けた。

講演は熊本の高安慎一君より初ま

定刻を三十分過ぎて振鈴、鳥蘭順

次郎博士會長として開會の辭を述べ、學會の生命は討論に在る云ふ氣焔を掲げ、報告、議事凡て型の如くに濟ませて、直に講演に入る。

午前中に約二十題を終つて、午後一時から、會場を二箇所に分設して、眞下俊一氏、島順次郎氏等四十題を一湧千里にやつつけた。第一日の最後に、脚氣問題を一括して十數氏交々壇上に立つたが、別に大した討論もなかつた。

第二日、辻博士の宿題報告は聴き物であつた。續いて數氏の甲狀腺機能に關する研究の報告があつた。第三日にはアチドージスや、内分泌に關する業績の講演が散見、否な散聽された。

### 第五分科會(外科)

會場 於京大學生集會所  
開期 四月二日、三日、四日

下平博士司會の下に開會、幹事の庶務會計報告や議事やらを終つて講演に入る。演題凡て百四十四題云ふ盛り澤山な御馳走、從て標本やら質問やらで進行掛りの苦しうな事は例に洩れず、宿題報告は第三日の(四日)午後二時で關口博士(宿題は化膿)の壇上に、立つた時には眞に滿場立錫の餘地もなかつた。

### 第六分科會(眼科)

會場 京大醫學部眼科教室  
開期 四月二日、三日午前九時

河本博士司會の下に開會、記者の遺入つた時は新美君が「角膜實質炎」に於て餘り手術を加へて刺戟し過ぎては却つて治癒に逆行せしむるとか云つて居る時だ、三日には臨床家に新しい興味を惹く演題も一二あつた

### 第七分科會(産婦人科)

會場 京大講堂  
開期 四月三日、四日午前八時

久保徳太郎學士の宿題「人工流産の適應症」は興味ある問題なので、聴衆堂に溢るゝといふ有様。氏は先づ人口問題、産兒制限、自然流産、墮胎及び人口流産に就て概説して、人工流産が如何なる疾病に對して行なはれつゝあるかに就て調査した結果を報告し、結核、惡阻、心臓疾患其他五種類に分類して詳説して臨床家を益する所が多かつた。

### 第八分科會(小兒科)

會場 於京大醫學部四講堂  
開期 四月三日、四日午前九時

弘田博士司會の下に開會、渡邊君二三の報告をして演題に入る。職掌柄女醫先生(吉岡彌生女史に叱られるかも知れぬから非男醫)の優しい御顔も五六見へる。第二鈴で必ず御降壇下さいの注意が演題に立つ演者の恰度頭の上に大きく光つて居るのが殊に目に付く。中には餘り急込んで録々話の出来ない先生もある。何と云つても學會は時間に崇られる事餘りに夥多しい。第二日の聞きものは大久保博士が自抄して本誌に寄せらるゝ筈。

### 第九分科會(消化器)

會場 京大臨床講義室  
開期 四月一日午前九時

平山博士が會頭に推され、一題十五分間討論五分間の範圍内で各自演説した。五時に散會するに直ぐ京都ホテルで懇親會を催した。

### 第十分科會(神經、精神)

會場 三高園講義室  
開期 四月二日、三日午前九時

第一日は特別講演がブツ通しに行なはれた。京大の野上博士の「生殖

慾之戀愛」は二時間に況つて、専門學者を啓發する所があつた。(此の原稿は次號に掲載す)。三日の午後は九大の榊氏(スタイナハ若返り問題)で賑やかであつた。

### 第十一分科會(耳鼻咽喉)

會場 於京大病理學講堂  
開期 四月二、三、四日午前八時

會頭相辻博士の挨拶の後に演説に遺入つた。第二日には、星野博士の擔當に係る宿題報告「迷路反射」が滿場を傾聴せしめた。

### 第十二分科會(皮膚科)

會場 於京大醫學部皮膚講堂  
開期 四月二日、三日午前八時

松浦博士司會の下に開會、議事で第一着に左記を議決した。  
次開催地 東京  
一、新陳代謝障礙と皮膚疾患  
二、中樞神經系の敵毒  
三、血尿  
宿題で「内分泌と皮膚疾患」の松本博士は會員を傾聴させた。問題の大槻子油製劑に關して二三デイスクツションがあつたが、之は演者の自抄を掲載する事にした。

### 第十三分科會(衛生、微生物傳染病)

會場 於京大醫學部衛生講堂  
開期 四月二日、三日午前九時

宮入博士司會の下に開會、此處では演説五分が殊に物の衷れを感じしめる。出演者は一千字以内の抄録を即日記録係に提出せよで會報に詳細に記載します外はないと見へる。北研の北島氏が逸早く傍聴席に見へて居るのが妙に感じられる。講演は渡邊君より初まつた。然し餘り演題が多いので京大の衛生並微生物の分は皆削除された。午後は病理のブログラムの最終に並べた「インフルエンザ」問題と聯合する。傳研の連中が非常に豊富な材料と潑激な意氣込みを以て堂々押し寄せたのに對し、何うしたものか北研の連中は眠れるが如く、何だか餘りに期待を裏切るので妙な噂が隨所に起る。能ある何か爪を隠して居る筈もないが、さうなごまごま云ふ聲もする。

### 第十四分科會(法醫、保險醫學)

會場 於京大醫學部法醫講義室  
開期 四月三日、午前九時

岡本博士司會の下に開會、午前中は保險醫學會で演題凡そ十、中濱博士、實吉博士等の大きい處があるに係らず來聴者は三十名位。午後は法醫である。泉二法學博士の出演が遅れた爲め會員のから始まる、此の中矢野春利君の「標死二百餘例に就て」は次號迄に自抄してから入手する筈。

### 第十五分科會(軍陣)

會場 於京大法律部第一教室  
開期 四月二、三日午前八時

陸軍省醫務局長の鶴田軍醫總監が開會の辭を述べ、祝辭の朗讀があつて、直に講演に入る。鶴田總監自ら座長席に納まる。

肩章佩劔をキラツカせるが一異彩だ。午前中の演題は殆んそ西伯利亞出兵を中心としたことばかり、午後にも取取りの話や飛行器衛生なまで聴衆が倦まないのがめづりものである。別室には各種の義手足が澤山陳列してあつた。

### 次回開催地は東京

次回會頭 醫學博士佐藤三吉  
同副會頭 醫學博士岡田和一郎

三云ふ事を決定した、準備委員及幹事等は會頭から推托する筈である。

### (十一頁ヨリ)

が聴えた、自分は生きて居ると云ふ事を發表せんと色々努めたけれども、それは不可能であつた、舌は上顎に附いて動かす、手足も動かない、翌日にならざるに横へられて居つた、三日間業の上に横へられて居つた、而して其の間には別人が交々來りて自分に用辭を述べて呉れた、而して物語つた事は一から十まで皆覚えて居る、第四日目に墓場へ埋められた。(中略)其れから何日経つたか分らないが、或日の事自分の居る所へ近かつきつゝある者のある事を知つた、而して間もなく自分引き揚げられた、而して其の棺は遠き距離まで運ばれた、而して冷たき臺の上に載せられた、——是は大理石の解剖臺でありました、其の時に多數の人々の聲を聞いた、自分の眼を手で以て閉いた者がある、電氣もかけられて胸部を切られた思ひをした時に初めて自分の全身に大なる變動があつて自分は生存してゐると云ふ事を告げ得たさ云ふのであります云々

### 野黨の勇士

敵を破るの阻止策か  
松下君の説く所は尙ほ多々無限であつた、が併し此の邊で打切る事にしよう。  
重ねて茲に謂ふ、此くの如くにして、松下君は奮闘更に奮闘を持續して、自己提出の建議案可決を主張したが、あ、遂に君の建議案は空しく葬り去られたのである。併し君のグラツトストンを凌ぐ長演説は、敵を破るの阻止策として、野黨の爲めには實に偉大なる功を奏した。即ち野黨中の勇士に賞するも決して過言ではあるまいぞ!

# 學會と演題

(三)

## 軍陣醫學會

演題 (前掲掲載の)  
(分に横く)

四月三日午前八時より

- ▽櫻椎骨骨折の一例 一醫 三村 英梧
- ▽第五趾骨結節の單獨骨折に就て 少佐 濱田 三郎
- ▽骨折の即時観血的手術に就て 中佐 今吉 政吉
- ▽海軍に於ける大腸骨骨折の統計的觀察 少佐 眞下 綠三郎
- ▽大腸骨骨折活潑川膝關節運動式伸展器供覧 少佐 濱田 三郎
- ▽實驗的骨假骨發生に及ぼす「レントゲン」線の影響に就て 一醫 鳥居 環
- ▽西伯利事變に於ける凍傷の原因に就て 三醫正 龜井 盛隆
- ▽四伯利事變に於ける凍傷の症狀及處置に就て 三醫正 久我 龜
- ▽凍死の本體に就て 一醫 竹内 銀
- ▽凍死に依る血液の變化に就て 一醫 竹内 銀
- ▽飛行場に於ける衛生勤務に就て附子の考案せる救急箱に就て 一醫 加藤 美
- ▽最近十一箇年間に於ける航空死傷者の統計的觀察 三醫正 寺師 義信
- ▽航空に於ける二、三の生理的實驗 一醫 杉崎 浩
- ▽胸膜炎患者の一統計に就て 三醫正 寺師 義信
- ▽胸膜炎患者の一統計に就て 中佐 氏家 孝次郎
- ▽海軍に於ける胸膜炎に就て 中佐 竹居 光積
- ▽海軍に於ける胸膜炎の原因に就て 中佐 今井金三郎
- ▽歩兵第十九聯隊胸膜炎の小統計 一醫 鈴木 忍

- ▽胸膜炎の統計的研究 二醫 小川 正男
- ▽胸膜炎診断の初稿 一醫 菅原章二郎
- ▽血中「ビリルビン」量と胸膜炎との關係 二醫 檜山 春二
- ▽胸膜炎患者の胸液研究豫報 二醫正 圓山 廣俊
- ▽胸腔液の屈折力検査 二醫正 藤波 正
- ▽軍隊胸膜炎主として渗出液の性状と原因との關係附實驗的胸膜炎 一醫 岸本宗次郎
- ▽胸膜炎の渗出液に就きて行へる結核菌検査成績 三醫正 出井一淳三
- ▽體液殊に胸腔渗出液の抗「トリツプシン」に就て 三醫正 出井 淳三
- ▽脚尿管中の重屈折性脂肪に就て 一醫 平井 正就
- ▽脚氣患者血液の酸素結合力と靜脈血中に於ける酸素及炭酸瓦斯含量に就て 少佐 田中 朝三
- ▽咽頭角化症に就て 一醫 野瀬 量弘
- ▽腺高性扁桃炎に就て 一醫 坪倉 利
- ▽爆發に依る聽器障礙の臨床的觀察 中佐 石原 亮
- ▽慢性鼻炎に對する「マクネシウム」類注射療法 一醫 野本 謙雄
- ▽埋伏智齒に因する三叉神經痛の治療 一醫 三内多喜治
- ▽空包銃創の一例 一醫 熊谷 用藏
- ▽爆創に就て 三醫 佐野 敏
- ▽頭蓋骨成形手術の二例 二醫 竹内 又佐
- ▽瘻核療法に就て 二醫 盛合 綾之
- ▽上顎骨に發生せる骨纖維腫の一例 三醫正 馬島 春海
- ▽人體管狀骨骨端に於ける骨長徑成長に就て 大尉 鈴木 諒爾
- ▽胸廓發育状態と骨長徑成長との關係 一醫 鈴木 諒爾

- ▽酒精に貯藏しある鹽の移植に關する實驗的研究 二醫 細見 憲
- ▽大腸貫通創治後被甲片遺残の爲十七年間痔瘻を胎したる症例 三醫正 岡本 晴一
- ▽興味ある内臟損傷に就て 一醫 青樹吉兵衛
- ▽興味ある實驗的胃潰瘍標本示説 二醫正 後藤 七郎
- ▽浸煎劑の防腐方法(第一回報告) 二醫 川口丁次郎
- ▽尿道坐藥の改良 一藥 奥田 健兒
- ▽野菜消毒試驗 少佐 松田繁次郎
- ▽排泄物の消毒試驗 少佐 松田繁次郎
- ▽「アスパタム」に就て 一醫 家原小文治
- ▽「ATB」ラクトンに就て 中佐 壁島 爲造
- ▽腸管扶菌の諸變化に就て 一醫 森島 爲造
- ▽腸管扶菌の諸變化に就て 一醫 森島 爲造
- ▽血清學的興味ある「バウチス」A型菌株に就て 少佐 行森 環
- ▽「コレラ」菌測定上免疫及反應の攪拌 中佐 壁島 爲造
- ▽「コレラ」増菌用「ペプトン」水に就て 中佐 壁島 爲造
- ▽細菌の精製分解に因る培地の水素「イオン」に就て 二醫正 春日 健造
- ▽特異性及非特異性免疫反應に就て 一醫 田原 鎮雄
- ▽第三師團入營初年兵流行性腸胃腸膜炎菌検査成績に就て 二醫 南 兵太郎
- ▽大正九、十年北滿及其の接續露領に流行せる「ペスト」に就て 二醫正 小出 忠一
- ▽浦潮市(露國領)の傳染病其の他の衛生統計に就て 二醫正 小出 忠一
- ▽閉會の辭 海軍軍醫中將 鈴木 裕三

## 解剖學會

- ▽閉會の辭 大尉 鈴木 諒爾
- ▽酒糟に貯藏しある鹽の移植に關する實驗的研究 二醫 細見 憲
- ▽大腸貫通創治後被甲片遺残の爲十七年間痔瘻を胎したる症例 三醫正 岡本 晴一
- ▽興味ある内臟損傷に就て 一醫 青樹吉兵衛
- ▽興味ある實驗的胃潰瘍標本示説 二醫正 後藤 七郎
- ▽浸煎劑の防腐方法(第一回報告) 二醫 川口丁次郎
- ▽尿道坐藥の改良 一藥 奥田 健兒
- ▽野菜消毒試驗 少佐 松田繁次郎
- ▽排泄物の消毒試驗 少佐 松田繁次郎
- ▽「アスパタム」に就て 一醫 家原小文治
- ▽「ATB」ラクトンに就て 中佐 壁島 爲造
- ▽腸管扶菌の諸變化に就て 一醫 森島 爲造
- ▽腸管扶菌の諸變化に就て 一醫 森島 爲造
- ▽血清學的興味ある「バウチス」A型菌株に就て 少佐 行森 環
- ▽「コレラ」菌測定上免疫及反應の攪拌 中佐 壁島 爲造
- ▽「コレラ」増菌用「ペプトン」水に就て 中佐 壁島 爲造
- ▽細菌の精製分解に因る培地の水素「イオン」に就て 二醫正 春日 健造
- ▽特異性及非特異性免疫反應に就て 一醫 田原 鎮雄
- ▽第三師團入營初年兵流行性腸胃腸膜炎菌検査成績に就て 二醫 南 兵太郎
- ▽大正九、十年北滿及其の接續露領に流行せる「ペスト」に就て 二醫正 小出 忠一
- ▽浦潮市(露國領)の傳染病其の他の衛生統計に就て 二醫正 小出 忠一
- ▽閉會の辭 海軍軍醫中將 鈴木 裕三

## 婦人科學會

- ▽閉會の辭 會長醫學博士 吾妻 勝剛
- ▽庶務及會計報告 幹事
- ▽時 日 四月三日 午前八時開會
- ▽時 日 四月三、四日
- ▽開會の辭 會長醫學博士 吾妻 勝剛
- ▽庶務及會計報告 幹事
- ▽稀なる適應性に行へる帝王切開の實驗例に就て 秋木 運兒
- ▽産褥に於ける壞疽性膀胱炎一例(標本供覧) 竹森 啓祐
- ▽分娩時期と氣壓との關係 岡本 寛雄
- ▽乳汁分泌量減少に對する胸下可體後葉越境新注射例 醫學博士 池上 五郎
- ▽胎盤より得たる催乳劑の臨床的效果に就て(第二回報告) 醫學博士 土肥 衛
- ▽胎盤の類脂肪物質に「フォスファチーア」及「アンチリン」の増減に就て 醫學博士 牛島 治郎
- ▽再び胎盤の内分泌作用に就て 醫學博士 谷口彌三郎
- ▽胎盤に於ける糖及蛋白質代謝機能に就て 醫學博士 笠森 周護
- ▽沃度の生殖機能に及ぼす影響 醫學博士 土肥 衛
- ▽妊婦耐勞力を以てする妊婦初期の診斷に就て 淺川 桂
- ▽初生兒溶血補綴に就て 佐々木龜藏
- ▽胎兒男女の尿診斷 醫學博士 木内 幹
- ▽羊膜内に注入せられたる二三藥品の母體移行試驗 柏原 笑兒
- ▽赤血球沈下反應並にその原因的研究(第三回報告)別巢並に其製劑が家庭赤血球の沈下速度に及ぼす影響に就て 小笠原 清
- ▽生理的狀態に於ける妊娠血液炭酸結合力に就て 醫學博士 内野淺次郎
- ▽妊娠時血清蛋白質量に就て 醫學博士 柏原 長弘
- ▽産婦人科患者に於ける血液の「カルチウム」量に就て 飯島 貫一
- ▽妊娠血液の「カルチウム」含有量に就て 醫學博士 中山 安
- ▽「ロイコチン」の傳染性との關係 醫學博士 下井智二郎
- ▽胎盤發育状態と骨長徑成長との關係 大尉 鈴木 諒爾

## 演題

▽正常妊娠産褥期に於ける免疫體形成能力に就て 藤田 紘

▽連鎖球菌の凝集反應に於ける温度及振盪作用の比較 四郷 司

▽煮沸免疫元が白血球に及ぼす影響に就て 島崎 義明

▽蕁麻疹免疫元の臨床的應用 醫學博士 井岡 忠雄

▽余が妊娠七等長の描唱 古屋 清

▽人工的受胎法(第一回報告) 古川 博巳

▽妊娠脚氣の原因に就て 高橋辰五郎

▽子癩に非ざる妊娠時の肝臟壞死 橋爪賢次郎

▽連發性蛋白白子癩 醫學博士 緒方 祐將

▽胎盤浸出液の毒作用に就て 石崎伴三郎

▽抗胎盤血清の毒性と妊娠に及ぼす影響 堀田 四郎

▽子癩患者の血液及び尿中の環素配分率に就て 山田 康

▽子癩患者の葡萄酒「トレンツ」並に「アアッターセ」量に就て 中田 四郎

▽子癩患者には「アナドリス」存するや 阪本 常秋

▽子癩の本態並に療法に就て 醫學博士 小畑 惟清

▽肺結核患者に人工流産を施したるもの經過觀察 吉岡儀三郎

▽妊娠期間に於ける陣痛痛起 勝矢 信司

▽人工流産の統計的觀察 浮田 信衛

▽人工流産の統計的觀察 横井 謙吉

▽人工流産の統計的觀察 岩津 俊衛

▽人工流産の統計的觀察 中澤 綠郎

▽人工流産の統計的觀察 中川 重夫

▽人工流産の統計的觀察 横山 茂樹

▽人工流産の適應症 擔當者 久保徳太郎

▽初生兒黃疸の原因に就て 秋山 七郎

▽胎兒骨の形態學的研究(第一回報告) 杉田 早人

▽初生兒廣汎性水腫の病理所見 西塚 泰雄

▽胎兒に於て腹水と誤られたる膀胱充滿の一例 平松禮太郎

▽日本婦人外陰部の解剖的研究(第二回報告) 上田慶一郎

▽巨大なる卵巣囊腫 飯島 尙

▽卵巣「ヘルニア」の一例 末川 悌

▽麻酔藥の呼吸に及ぼす影響 緒方 英俊

▽「クロロフォルム」麻酔に就て 醫學博士 加治 安借

▽貧血に對する食鹽液注射の生理學補遺 三浦 繁松

▽子宮外妊娠に對する自家輸血法に就て 佐々木松齋

▽一個喇叭溢血と他個喇叭破裂との併發 醫學博士 大石 貞夫

▽自家考案の子宮位置測定機に就て 醫學博士 郷原 暎

▽朝鮮婦人に於ける子宮脱及其後遺症 醫學博士 久慈直太郎

▽手術的去勢術後に於ける缺損症狀及其療法 醫學博士 白木 正博

▽月經時に於ける婦人の耐痛力に就て 柳澤 包雄

▽生殖器炎症に於ける「ロイコチート」の身體内分布狀態に就て 堀尾 辰雄

▽生殖器炎症に於ける「ロイコチート」の身體内分布狀態に就て 堀尾 辰雄

▽腎臟剝出後に於ける血液の化學的及血清學的觀察 向井 久市

▽子宮筋腫の心臓に及ぼす影響に就て 小坂 孝雄

▽子宮筋腫の生物學的研究 瀧山 耐

△再び子宮内膜炎に就て 醫學博士 川添 正道

▽子宮内膜炎と黃體像との關係に就きて 飯島 直

▽白鼠の子宮結膜に就て 吉川 伸

▽副交感神經毒の注射による子宮結膜の變化に就きて 陶守三思郎

▽「アアン氏」(ミオメトリアルドロー)「セー」に就て 村岡 千似

▽子宮結膜の吸収及排泄作用に就て(續報) 村上 清

▽子宮結膜吸收作用に關する實驗的研究追補 大原 盛三

▽高麗子宮全摘出の際尿管損傷を起せるもの、經過 明比 竹馬

▽子宮筋腫の「ラゲウム」療法(第五回報告) 阿部喜市郎

▽「ラゲウム」の卵巣に及ぼす作用に就ての實驗的研究 堀 辰市

▽「ラゲウム」療法に就て(續報) 醫學博士 岡林 秀一

▽「ラゲウム」療法に就て(續報) 醫學博士 勝矢 信司

▽「ラゲウム」療法に就て(續報) 醫學博士 山崎 清

▽兩棲類(殊に有尾類)の卵に於ける血管の分布狀態に就て 石川 信男

▽甲状腺剝出の雌性生殖器に及ぼす影響に就て 西岡 道雄

▽卵巣内及上表に見る杯狀細胞 醫學博士 明成彌三吉

▽女性に於けるスタインナツハ氏若返り法の實驗的研究 永島良之輔

▽卵巣の再生機轉に就て(實驗的研究) 村尾 信彦

▽「パラヒネー」に由る内分泌研究 後藤 直

▽「カストラチオン」後の子宮に對する藥物學的研究 醫學博士 原 正平

▽剝出子宮の運動 醫學博士 緒方 祐將

▽「ルタミン」の臨床的實驗 醫學博士 今井 環

▽「アルハイインドールエチルアミン」シクロロヒドライト」の生理的作用に就て 根本 豊治

▽「ヒスタミン」(「ペーグーイミダツオ」イールエチルアミン)に關する二三實驗補遺 本多 操

▽各種内分泌腺の子宮收縮に及ぼす影響に就て(第三回報告) 狹間 章雄

▽脂肪飼育に因る雌性生殖器の變化(第一回報告) 村岡 千似

▽健康婦人妊娠時及び成熟胎兒の血液中の「カルチウム」含有量に就て 向井 久市

▽妊娠時及初生兒血液中の全脂肪量に就て 勝矢 信司

▽「ゲアアルミー」の組織に及ぼす作用に就きての實驗的研究 醫學博士 川添 正道

▽「ゲアアルミー」の組織に及ぼす作用に就きて 醫學博士 堀 辰市

▽結晶免疫に就きて 醫學博士 中山 安

▽正常妊娠産褥期血清の殺菌力に就て 程 立

▽子宮癌(第四回報告) 醫學博士 緒方十右衛門

▽卵巣黃體の人工的發生に就て(第三回報告) 廣瀬 豊一

▽手術前後に於ける赤血球の抵抗 大畑 實

▽最近四ヶ年に於ける人工流産の統計的觀察 橋本 敏文

▽胎盤絨毛の妊娠植物性神經系統に及ぼす影響に就て 前原 俊男

▽悪性脈絡膜上皮腫に就て 中村關太郎

▽余の腸線 醫學博士 宇山 俊三

▽理想的皮膚縫合法 醫學博士 宇山 俊三

▽小陰唇腺皮膚病の一例 大城 眞輝

▽副陰腺腺絲に就て 濱田 俊夫

▽體內へ輸送せられたる砒素化合物の生殖系臓器内に於ける分布狀態 龜山 正雄

▽子宮附屬器炎症に對する「セルペンチン」の注射療法並にその作用に就て 八木 繁

▽女子特有腺癰に就て 進藤 支敏

▽閉會の辭 會 長

▽會 場 京大醫學部附屬醫院内科 講堂

▽時 日 四月三、四日午前九時より

▽開會の辭 會長 醫學博士 弘田 長

▽庶務會計報告 醫學博士 弘田 長

▽議事 次回開會地選定の件、次回宿題選定の件、會長選舉

四月四日 午前九時より

▽演 題

▽尿中の「アセトン」及び「アセト」酸の一測定法 小松 芳樹

▽簡單なる微量血糖測定法 服部峻治郎

▽非經口的疾種蛋白輸入が家兎の血液、尿に及ぼす影響 土井 知覺

▽人乳、血液、尿中二三成分の相互關係 一松 美利

▽本邦婦人幼兒の溶血素に就て 中村 政司

▽佐藤、泉雨氏「クロール」定量法の一變法(急速法) 伊藤鏡治郎

▽健康邦人血小板數の年齢的差異 高橋 寛

▽病的兒童のアシユネル現象に就て 奥野 善一

▽乳兒に於ける消化性通過の時間及び其の生物學的病理學的變遷 澤木 伊重

▽人工的に混血せる腸管液検査に關する注意 飯尾 新

▽實驗的パルロー氏病の副腎「アドレナリン」含量 森岡信太郎

▽實扶的里毒素の副腎に對する影響に就て(第二回報告) 飯野 豊

▽酸及び「アルカリ」の「アドレナリン」過血糖に及ぼす影響 栗山 重信

▽「アドレナリン」の「アセトン」酸に及ぼす影響に就て 杉田 鶴

▽隨液簡單なる蛋白除法(附「隨液」の「クロール」微量測定法) 佐藤 彰

▽胸腺剝出實驗成績 高橋 寛

▽胸腺剝出實驗成績 好本 簡

演 題

擔當者 久保徳太郎

四月四日 午前八時より

秋山 七郎

杉田 早人

村岡 千似

小兒科學會

△失血性貧血の實驗的研究(其二)腎臟  
内酸素消費に就て 佐野 寅一

△肺癆症の一治験例 長澤 四郎

△數粉榮養障礙の聲音咽喉に就て 遠藤忠三郎

△乳兒脚氣心臓機能検査 泰井 軒二

△乳兒脚氣母乳第一報、物理化學的方面 鎮目專之助

△乳兒脚氣及び所謂腦膜炎の腸内細菌 白井 敏

△乳兒脚氣患者心臓の「レントゲン」觀 大井昌四郎

△乳兒脚氣の經過中に現はれたる腦症 安永 澄

△所謂人乳中毒症の病理組織學的所見 三浦操一郎

△所謂腦膜炎及び乳兒脚氣母乳の脂肪 垂水 正保

△所謂腦膜炎患者血液所見に關する知見補遺(附)乳兒脚氣血液所見 前田伊三次郎

△所謂腦膜炎、所謂人乳中毒症及び乳兒脚氣の血液變化に就て 生地 憲

△所謂腦膜炎の本態に關する知見並に 栗本 義時

△小兒慢性下痢の療法 青山 太郎

△東北(蛋白)乳を使用せる重症消化不良症の治験 唐澤 光徳

△飢餓時に於けるリンゲル氏液葡萄糖液及び重曹水の影響に就て 佐藤 彰

△牛乳各種製品並に人乳(健康及び脚氣乳)加白米による「マリス」の飼養試験 吉松 駿一

△「メチアスチナル、ツモール」 柳井 正清

△「四」四日 午前九時より 酒井 潔

△狗糞中に就て一部檢例 肥爪實三郎

△脚「ヤストマ」蟲に關する脚軟化糞腫 生地 憲

△「メチアスチナル、ツモール」 絨谷 正男

△「四」四日 午前九時より 絨谷 正男

△狗糞中に就て一部檢例 田中 淨吉

△脚「ヤストマ」蟲に關する脚軟化糞腫 田中 淨吉

△「メチアスチナル、ツモール」 絨谷 正男

△「四」四日 午前九時より 絨谷 正男

△狗糞中に就て一部檢例 田中 淨吉

△脚「ヤストマ」蟲に關する脚軟化糞腫 田中 淨吉

△「メチアスチナル、ツモール」 絨谷 正男

△「四」四日 午前九時より 絨谷 正男

の一例(標本供覽) 池田 誠一

△歐洲戰爭中瑞西ロザンに於ける小兒寄生蟲傳播に關する研究 阪本和三四郎

△小動物の實驗的蠕幼蟲病に於ける二三の知見 甲木 鎮一

△「ヒメノレバシス、ナ」と「ムリ」 中村 良一

△中樞神經組織の細菌毒素に對する影響に就て(第一回報告) 井貫 耕平

△百日咳菌の一性狀に就て 中島 正徳

△百日咳菌に對する拮抗菌の治験的作用に就て 渡口 精鴻

△北伊勢地方に於て診察せし嵐病十八例臨床史上統計的記録 二宮洋三郎

△「アレル氏現象」に就て 福田 十郎

△赤痢「エーゲル」に就て 川越 治房

△疫痢及び小兒赤痢患者に對する「アレル氏現象」の作用に就て 田中 利雄

△疫痢及び赤痢の二三症狀に就て 合屋友五郎

△麻疹の再感染に就て 田中 利雄

△義膜性腸炎に就て 小津 孟

△「サブテア」血清の精製に就て 清水宗一郎

△「白血病患兒」に於けるX線放射及び其の尿所見 鈴木 正

△發作性血色素尿患者の「チトフイオン」に就て 山村 康祐

△「脳氣腫」に就て 佐野 伴治

△先天性筋弛緩症の一例 谷口 清一

△乳兒に反覆せる嵌頓「ヘルニア」に就て 伏木 卓也

△所謂特異性貧血病の一例 諸方政次郎

△夏期林間學校入校兒童閉鎖後半ケ年の健康状態に就て 秋場 隆一

△戦後獨逸に蔓延せる結核性疾患 小池 才一

△綠色腫に就て 戸川 篤次

△肝臟の解毒作用に關する實驗的研究 原 實

△幼年性麻痺性痲癩症(組織學的檢査) 小山 武夫

△竹内 滿兵

△本邦小兒皮膚毛細管に關する知見(第二回報告) 福井 龍起

△股動脈音の臨床的考按 岩井 眞金

△動脈音に就て 渡邊 勇

△白血球に及ぼす「キニート」の影響に就て 合屋友五郎

△治療上の二三の經驗 酒井 幹夫

△所謂「アレル現象」に就て 鈴木 正

△「アレル現象」の「ラツプ」作用 秋場 隆

△所謂東北乳の製法(附)成分 佐藤 彰

△乳兒皮膚肉腫症の一剖檢例 栗山 重信

△強度の未熟兒發育例に就て 小柳 義雄

△免疫家兎膽汁の肺炎双球菌に對する作用(第二報) 緒方政次郎

△幼家兎に於ける「カルシウム」新陳代謝(豫報) 福田 十郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△閉會の辭 前田伊三次郎

△飢餓試驗(第一回報告) 醫學博士 谷 實

△急性死と胸腺の殘留 醫學博士 中田 篤郎

△窒息死と間質性氣腫 同 篤郎

△刑法上より觀たる醫師の權利義務に就て(實驗的研究) 醫學博士 泉二 新熊

△胃腸薬に由る胃粘膜の組織學的變化に就て(實驗的研究) 醫學士 寺田 四郎

△急性死と心筋斷裂との關係に就て 醫學士 佐野 甚七

△溺死の實驗的研究(主として心臓血の濃度及び溺水性血尿) 同 人

△保險醫學演題 醫學博士 山上 熊郎

△十五歳未満男女被保險者體格に關する統計的觀察 醫學士 板澤 政治

△國民對被保險者の結核死亡に就て 醫學士 石岡繁太郎

△醫學的選擇の效果に就て 醫學士 渡邊 定

△インフルエンザ死亡者の體格 醫學士 丹治 善造

△疾病死亡率に及ぼす選擇の影響に就て 醫學士 高田他家雄

△社會衛生に就て 醫學博士 中濱東一郎

△頸圍に就て 醫學士 岡村 進

△短期死亡に就て 醫學士 秋山 妙治

△結核の早期診斷に就て 醫學博士 實吉 純郎

△會場 京都帝國大學法學部第二教室 大正十一年四月二日及三日

△會期 大正十一年四月二日及三日

△會場 京都帝國大學法學部第二教室

△會期 大正十一年四月二日及三日

△會場 京都帝國大學法學部第二教室

△會期 大正十一年四月二日及三日

△會場 京都帝國大學法學部第二教室

△會期 大正十一年四月二日及三日

△會場 京都帝國大學法學部第二教室

△會期 大正十一年四月二日及三日

△會場 京都帝國大學法學部第二教室

△會期 大正十一年四月二日及三日

△會場 京都帝國大學法學部第二教室

△會期 大正十一年四月二日及三日

△會場 京都帝國大學法學部第二教室

△現代人心理的病的方面 京都帝國大學教授文學博士 米田庄太郎

△加算法に依る學齡より丁年迄の注意及作樂能率發育研究 九州帝國大學教授 醫學博士文學博士 榑 保三郎

△生噴怒と戀愛 京都帝國大學教授文學博士 野上 俊夫

△刑罰理由の變遷 京都帝國大學教授文學博士 宮本 英倫

△惡談會 四月三日 午前九時より

△早發性痲癩及麻痺性痲癩患者蜘蛛膜下腔のフェノールスルホンナフタレン排除機能に就て 松本高三郎

△再び精神病患者耐性性の時間的推移に就て 土屋 省三

△精神病者の血液内に於ける殘餘窒素に就て 小峰 茂之

△神經系の新陳代謝機構(第三) 小峰 茂之

△アドレナリン蜘蛛膜下腔内注入による血糖量の変化に就て 種村 武

△ノイロトキシンに關する研究(第一回報告) 渡邊龍太郎

△鐵鏡の精神的作用に及ぼす影響に就て 樫田 五郎

△偏食攝取による腦及肝臟鐵鏡狀態の回復 丸井 清泰

△肺絡叢に於ける病理知見補遺 鈴木 雄平

△麻痺性痲癩及其他の精神病患者の腦血管肺絡叢の顯鏡的檢査 二木 松鏡

△ニッスル染色體の生成に就て 諸岡 存

△腦に現はる、ラムゲ顆粒に就て 新井 昌平

△所謂クロマトリーセに就て 新井 昌平

△種々の中毒による腦及肝臟の變化 鈴木 雄平

△種々の中毒による腦及肝臟の變化 鈴木 雄平

△種々の中毒による腦及肝臟の變化 鈴木 雄平

△種々の中毒による腦及肝臟の變化 鈴木 雄平

△種々の中毒による腦及肝臟の變化 鈴木 雄平

△種々の中毒による腦及肝臟の變化 鈴木 雄平

△種々の中毒による腦及肝臟の變化 鈴木 雄平

△種々の中毒による腦及肝臟の變化 鈴木 雄平

△種々の中毒による腦及肝臟の變化 鈴木 雄平

△種々の中毒による腦及肝臟の變化 鈴木 雄平

△種々の中毒による腦及肝臟の變化 鈴木 雄平

△種々の中毒による腦及肝臟の變化 鈴木 雄平

△種々の中毒による腦及肝臟の變化 鈴木 雄平

△種々の中毒による腦及肝臟の變化 鈴木 雄平